

第1章 事業の概要

1 趣 旨

「東南アジア青年の船」未来会議は、「東南アジア青年の船」事業が新型コロナウイルス感染症の感染拡大により実施できない状況においても、日本とASEAN10か国の青年交流を絶え間なく継続させるため、実施する。本会議は、「次世代リーダー育成会議」と「日本・ASEAN青年交流における『東南アジア青年の船』事業の在り方検討会議」の2つのオンライン会議により構成される。

(1) 次世代リーダー育成会議

将来活躍したい分野別グループによるディスカッション活動

a. 目的

オンラインを活用した交流活動を行うことにより、青年相互の友好と理解の促進、国際社会における実践力の向上を図り、もって国際化の進展する社会の各分野で指導性を発揮することができるリーダーを育成することを目的とする。

併せて、将来活躍したい分野ごとに日本とASEANの青年が、同じ議題について議論を深めることにより、各分野における青年達の将来的な連携を深めるとともに、今後の具体的な活動に寄与させるものとする。

b. 内容

9つの分野（政策、外交、教育、グローバル企業、起業、ICT、NGO/NPO、環境・災害、インフラ）ごと

に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえた具体的なケーススタディについて、ファシリテーターを用いてディスカッションを行う。また、ディスカッションを行うにあたり、オンラインでの課題別視察等を行う。

(2) 日本・ASEAN青年交流における「東南アジア青年の船」事業の在り方検討会議

「東南アジア青年の船」事業既参加青年が、「東南アジア青年の船」事業の在り方について提言を行うもの

a. 目的

「東南アジア青年の船」事業中及び事業後の経験の共有を通して、国際化の進展する中でのリーダーとして必要なものについて気づきを得るとともに、提言の作成を通して、プレゼンテーション能力及び意見の集約能力の更なる向上を図ることを目的とする。併せて、「東南アジア青年の船」事業をより良い事業とするため、既参加青年の意見を聴取する。

b. 内容

「東南アジア青年の船」事業が、日本・ASEANの友好、青年交流等において、これまでどのような役割を担っていたか、そして今後、日本・ASEANの友好、青年交流、発展等にどのような貢献ができるか、また貢献するためにどうあるべきかについての提言を既参加青年の立場から行う。

2 日 程

事項	日程
関係各国連絡会議	令和2年7月20日(月)及び21日(火)
日本参加青年選考試験	令和2年12月5日(土)
日本参加青年事前研修	令和2年12月12日(土)
ファシリテーター会議	令和2年12月16日(水)、令和3年1月11日(月)、24日(日)、31日(日)、2月7日(日)
「東南アジア青年の船」未来会議	令和3年1月24日(日)、31日(日)、2月7日(日)、21日(日)

3 参加青年 (PY)

参加青年 (PY) は、次の資格要件を備える応募者の中から、各国政府が選考する。

(1) 次世代リーダー育成会議

a. 人数 (定員)

9分野各国各3名 (1か国全27名)
11か国合計297名

b. 資格要件

- (a) ASEAN各国と日本との青年交流に対する関心がある者
- (b) 令和2年の各国政府の定める日現在において、年齢が満18歳から30歳までの者
- (c) ディスカッション活動を円滑に行うことができる英語力を有する者
- (d) 過去「東南アジア青年の船」事業に参加したことがない者

本会議に参加したことによって、来年度以降の「東南アジア青年の船」事業への参加の妨げになることはない。(本会議参加者も、来年度以降の「東南アジア青年の船」事業に参加可能。)

(2) 日本・ASEAN青年交流における「東南アジア青年の船」事業の在り方検討会議

a. 人数 (定員)

各国4名
11か国合計44名

b. 資格要件

- (a) 「東南アジア青年の船」事業既参加青年
- (b) 令和2年の各国政府の定める日現在において、年齢が満22歳から39歳までの者

4 ファシリテーター会議

次世代リーダー育成会議におけるディスカッションの目的などについて、ファシリテーターに共通認識をもってもらうとともに、その運営方法等について協議、情報交換等を行うことにより、ディスカッションの円滑かつ効果的な実施に資するため、ファシリテーター9名とオンラインにて、次世代リーダー育成会議ファシリテーター会議を開催した。

【ファシリテーター会議協議事項】

第1回 (令和2年12月16日)

- (1) 「東南アジア青年の船」未来会議概要と日程
- (2) グループ・テーマに係る基礎情報についてのファシリテーターからの提案及び意見交換
- (3) 成果報告会の進め方
- (4) PYへの事前課題

第2回 (令和3年1月11日)

- (1) ファシリテーターから準備状況共有
- (2) 次世代リーダー育成会議に向けた準備

第3回 (令和3年1月24日)

- (1) グループ・ディスカッションIの振り返り
- (2) 課題別視察に向けた準備

第4回 (令和3年1月31日)

- (1) グループ・ディスカッションIIの振り返り
- (2) 成果報告会に向けた準備

第5回 (令和3年2月7日)

- (1) グループ・ディスカッションIIIの振り返り
- (2) 成果報告会に向けた準備



第1回ファシリテーター会議 (令和2年12月16日)

【次世代リーダー育成会議ファシリテーター名簿】

ディスカッション・グループ	氏名	性別	国名
政策		男	英国
外交		男	日本
教育		男	タイ
グローバル企業		男	インドネシア
起業		男	ギリシャ
ICT		女	フィリピン
NGO/NPO		男	マレーシア
環境・災害		男	カンボジア
インフラ		女	タイ

第2章 「東南アジア青年の船」未来会議

1 日程

月日	時間 (日本時間)	活動内容
令和3年 1月24日 (日)	13:30-14:00	各国紹介動画上映
	14:00-14:25	開会式 ・ 坂本哲志内閣府特命担当大臣挨拶 ・ 吉田大内閣府青年国際交流担当室参事官補佐(青年交流第3担当)挨拶 ・ 内閣府担当者、一般財団法人青少年国際交流推進センター担当者紹介 ・ 参加国紹介 ・ ファシリテーター紹介 ・ 「東南アジア青年の船」未来会議説明
	14:25-14:50	基調講演 講演者: Mr. Haji Muhamad Iqbal Fakhri bin Haji Damit (第36回SSEAYPブルネイPY、第45回SSEAYPブルネイ・ナショナル・リーダー)
	15:00-18:00	グループ・ディスカッションI (ディスカッション・グループ (DG) 別) <次世代リーダー育成会議> DG1: 政策グループ DG2: 外交グループ DG3: 教育グループ DG4: グローバル企業グループ DG5: 起業グループ DG6: ICTグループ DG7: NGO/NPOグループ DG8: 環境・災害グループ DG9: インフラグループ <日本・ASEAN青年交流における「東南アジア青年の船」事業の在り方検討会議>

月日	時間 (日本時間)	活動内容
令和3年 1月31日 (日)	14:00-16:00	<p><次世代リーダー育成会議> 課題別視察 (DG別)</p> <p>DG1: 公益財団法人松下幸之助記念志財団 松下政経塾 DG2: 外務省 DG3: トビタテ! 留学JAPAN DG4: EY Japan株式会社 DG5: 株式会社ボーダレス・ジャパン DG6: 多国籍アパレル企業ITディレクター DG7: 特定非営利活動法人だっぴ DG8: 国際航業株式会社 DG9: 三井不動産株式会社</p>
	16:00-18:00	<p>グループ・ディスカッションII (DG別)</p> <p>DG1: 政策グループ DG2: 外交グループ DG3: 教育グループ DG4: グローバル企業グループ DG5: 起業グループ DG6: ICTグループ DG7: NGO/NPOグループ DG8: 環境・災害グループ DG9: インフラグループ</p>
	14:00-18:00	<p><日本・ASEAN青年交流における「東南アジア青年の船」事業の在り方検討会議> グループ・ディスカッションII</p>
令和3年 2月7日 (日)	14:00-18:00	<p>グループ・ディスカッションIII (DG別)</p> <p><次世代リーダー育成会議> DG1: 政策グループ DG2: 外交グループ DG3: 教育グループ DG4: グローバル企業グループ DG5: 起業グループ DG6: ICTグループ DG7: NGO/NPOグループ DG8: 環境・災害グループ DG9: インフラグループ</p> <p><日本・ASEAN青年交流における「東南アジア青年の船」事業の在り方検討会議></p>
令和3年 2月21日 (日)	13:30-14:00 14:00-18:00	<p>各国紹介動画上映 成果報告会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次世代リーダー育成会議成果報告 (DG別) ・ 日本・ASEAN青年交流における「東南アジア青年の船」事業の在り方検討会議による提言 ・ 吉田大内閣府青年国際交流担当室参事官補佐 (青年交流第3担当) 挨拶

2 内閣府特命担当大臣挨拶

坂本哲志内閣府特命担当大臣

令和2年度「東南アジア青年の船」未来会議の開会に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

「東南アジア青年の船」事業は、日本とASEAN諸国との共同事業として40年以上の長きにわたり継続してきた歴史ある事業です。

私もこれまで度々ASEANの国々を訪問する中で、その著しい成長を肌で感じております。

これからも各国の相互理解と友好の促進が重要であるとともに、各分野をリードする人材の育成が各国の発展に不可欠であることから、今後も本事業を継続してまいりたいと考えております。

しかしながら、今年度は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、国を越えた交流が困難な状況であり、当初予定しておりました船による事業も残念ながら中止となりました。

その一方で、現代はオンラインの活用により遠く離れた国々の青年同士が瞬時につながるができる時代でもあります。

こうした技術も活用し、代替的な国際交流の場、そして新しい試みとして本会議を開催することとしました。

このような場に、熱意ある青年の皆様が参加され、本日の開会を迎えることができ、私としても喜ばしい限りです。

時代に即した様々なテーマについて大いに議論いただくことで皆様は成長されるとともに、今後の事業の充実に資する実りある提言を行っていただくことを切に祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。

令和3年1月24日
開会式

3 基調講演

Mr. Haji Muhammad Iqbal Fakhri bin Haji Damit

(第36回SSEAYPブルネイPY、第45回SSEAYPブルネイ・ナショナル・リーダー)

まず、今回の基調講演に私をお招きくださったことに感謝します。私の経験を共有できることを嬉しく思うとともに、今年度の「東南アジア青年の船」未来会議の参加者に何らかのインスピレーションとなることを願います。

11年前の2009年、私はSSEAYPの参加青年としてユース・リーダーを務めました。それから9年後、つまり今から2年前には、28名の素晴らしいブルネイ参加青年たちを率いるナショナル・リーダーとして、SSEAYPに参加する機会に恵まれました。本日の基調講演を始める前に皆さんに伝えたいのは、ぜひこの機会を、多くの人々と出会い、友人となる機会としてください、ということです。なぜなら、過去11年間の私の活動、そして今の私自身があるのは、同期・先輩・後輩との関係に関わらず、SSEAYPのおかげだったと感じているからです。

2009年の当時、私は「ボランティア」をテーマとしたディスカッション・グループに所属していました。これは、今年度のテーマの中では「NGO/NPO」に似ているかもしれません。このグループに参加する以前は、私はボランティアにすごく関心があった訳ではありません。

それまで私は、人道支援やボランティア活動、慈善活動については何も知らなかったのですが、SSEAYPは私に多くのことを教えてくれました。11年前にインスピレーションに溢れる多くの若者たちと出会ったのは、まさにこのディスカッション・グループでのことでした。23~24歳という年齢で、彼らはそれぞれの国で多くの貢献活動をしていて、帰国した時には彼らのようになるんだと、私は自分自身に言い聞かせたのでした。

神アッラーの名の下に、私はこれまでに、ブルネイ国内での37件のプロジェクトに加え、マレーシア、フィリピン、カンボジア、インドネシア、バングラデシュ、そして日本など、海外でのプロジェクト23件に携わりました。過去11年間で私は約2万人の人々の心に触れただけですが、私のゴールは、自分の人生を終えるまでに少なくとも10万人の人々の心に寄り添うことです。ですからPYの皆さん、どうかこの私の目標のために祈ってください。

■情熱

早速ですが、今日のトピックに入っていきます。

私が今日皆さんにお伝えしたいことは、「情熱」です。自分自身の内側であろうが、外側であろうが、又は既に見つけていようが、まだであろうが、誰もが情熱を持っています。しかし、最も重要なことは、あなたが自分の情熱を見つけないのなら、好きなことを探すことです。情熱について考えるとき、おそらく四つの大きなカテゴリに分類することができるでしょう。(1) コミュニティ、(2) 環境、(3) 教育、(4) 人道主義、です。これらの大きなカテゴリの中から情熱を探そうとするとき、全てに異なる長所と短所がありますが、どれか一つの要素が他よりも優れているといったことはありません。これら四つの要素は全て社会において役割を担っており、特に国連の持続可能な開発目標 (SDGs) に沿って深く考えてみると、これらの要素が全て内包されていることに気がつくでしょう。

そして皆さんが自分の情熱に気づく時というのは、同じ思いを持った人々に出会う時でもあります。例えば、気候変動のような環境に興味があるなら、既に国内・地域内に多くの活動、関係者、ステークホルダーが存在しています。世界は皆で同じ方向に向いているのです。あなたがもし自分の情熱を本当に追求したいと思うのなら、この大きくて怖い世界でも同じ情熱を持った人たちに出会うはずで、一人では、生き残ることはできません。ですからどうか、同じ情熱を持つ人々を見つけてください。情熱を持つ人々に出会ったなら、その後の協働のプロセスは興味深いものとなるでしょう。どういう意味かと言いますと、例えば、昨年新型コロナウイルス感染症の感染拡大により旅行ができませんでしたが、私は旅行がとても好きなので、いつも海外で協働できる人々や仲間を見つけます。マレーシアの奥地で大きな洪水が起きた時、私たちは最初一つのプロジェクトとして動き始めました。しかしそれが今や6か国で数千の人々を助ける活動となりました。これは私が行った活動の一例に過ぎません。皆さんも、情熱さえあればあなたの国で同じことができるのです。人々に会う機会を持つのであれば、SSEAYPは最高のプラットフォームでしょう。素晴らしい人たちと出会い、充実した議論を行い、その後何年と続く活動が展開されていくのです。

■情熱を行動へ

自分の情熱が何かわかったら、そして同じ情熱を持つ友人を見つけ、「これをやるんだ」と決めたのなら、どんな行動をとったら良いか、本やInstagram、SNSで多くの方法が語られています。しかし、私がやるのは主に三つのことです。私が情熱を行動に移すとき大切にしているのは、(1) とにかくやってみる、(2) 「もしも」と考えすぎない、(3) 計算されたリスクをとる、ということです。まず初めに、「とにかくやってみる」ということについて。例えば、来週ブルネイで大洪水が起きたとし

ます。私たちは、とにかく行動するしかない、と思うでしょう。とにかく行こう、とにかくやろう、と。

最近の若者はとても優秀で、「もしも」のことを考えすぎます。「もしも何かが起きたら」、「もしもこれが起きたら」。私自身に投げかけられた問いをシェアしましょう。「もしも洪水が起きたら？水位が高すぎたら？」戻ってくるしかないのです。「ワニに遭遇したら？」とにかく引き下がって逃げるしかないのです。これらのことを紙に書こうとしたらあまりに多すぎますし、頭では分かっている、簡単に行動できる訳ではありません。リスクが大きすぎる時は、とにかく引き下がるしかないのです。人生でこれ以上に危険なことなんてあるのでしょうか。自分の人生や仲間が危険な状況に晒されていると思ったら、とにかく引き下がらな

■情熱の維持

自分の情熱を維持するということについて、私自身はたくさん問いを持っています。あなたはどうかやって仕事を続けますか。どうやって情熱をキープしますか。どうやってこれより先に進みますか。自分の情熱を見つけて仲間に出会ったなら、まずは行動を起こしてください。これをするにより、あなたのビジョンはより明確になり、どうやって情熱を維持するかということすら議論する必要がなくなります。なぜならそれだけ自然に情熱が湧いてくるからです。例をあげましょう。なぜ人々は5年後の未来のことについて話すのでしょうか。なぜ2021年の今やるべきことをこなしていないのに、2026年の話をするのでしょうか。未来について考えすぎるのはやめましょう。今行動するのは、すぐ行動するのは、最も重要なことは今現在であり、どうやって情熱を維持するかということではありません。自分の情熱と行動を探ることの方がよっぽど重要なのです。これらが全てかけ合わさったなら、持続的な情熱といったものは自然とついてくるでしょう。

■コロナ禍でのゲーム・チェンジ

さて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に、誰もが何らかの形で影響を受けている昨今、2020年から考えていた三つのことを共有させてください。私はいつも、このコロナ禍でどうやって自分の仕事を続けているのかと聞かれます。私がいつも心に留めている三つのことがあります。私自身は、いつも自分に変化は良いことだと言い聞かせているのです。なぜなら、変化は私たちがより良く考えるのを助けるとともに、私たちの創造力を刺激し、何よりも自分自身を高めることができるからです。また、変化を受入れるということも重要です。これは新型コロナウイルス感染症に限ったことではなく、私たちが行う全てのことにおいて重要です。例えば何らかの慈善活動をするとき、過去数か月にわた

り毎日24時間かけて計画をしたのに、活動当日に大雨が降ったり、準備不足だったことがあったりします。どうしたら良いのでしょうか。そんな時は、部屋に戻り、傘とレインコートを持って、とにかく行くのです。これが、変化を受入れるということです。そして何よりも重要なのは、変化に適応していくということです。変化に適応するというのは、決してあなた自身のゴールを変えるということではありません。しかし、いつでも、自分のやっていることや計画していることを適応させ、異なるやり方で実行していくことが重要なのです。

■終わりに

今日の私の話の中で、特に強調したいことは三つあります。(1) 情熱を見つけるということ、(2) 行動に移すということ、そして、(3) 情熱の探求と行動の実行を続けていれば情熱は自然と維持されていくということ、です。1年、3年、5年、更には10年かけてそれを続けるのです。私自身、2010年の頃には、自分が他の人々から認められ、今日のように300名もの若者の前で基調講演をするとは思っていませんでした。今日皆さんに私自身の情熱を共有できたことは、大きな喜びです。

皆さんに送りたい今日最後の言葉は、目的地はしっか

りと定め、しかしそこに至る旅路は柔軟に、ということです。今申し上げた通り、皆さんそれぞれのターゲットや支援の受益者が、人間であろうが動物であろうが、地域、環境、人道支援だったとしようが、まずはゴールを設定しましょう。例えば、私は今年五つのプロジェクトを実施して300名の人にリーチしたいと考えています。しかし、そこに行き着くためには柔軟性を失ってはけません。人生には、自分で予測していた以上のハードルが待ち構えています。ですから、一步一步、着実に。そのプロセスを楽しむというのは、最も重要なことなのです。なぜなら、一度目的地に辿り着いたならば、もう一度この旅路を味わいたいと、きっと思うに違いないからです。

以上が私の伝えたいことの全てです。もし私のことをフォローしたければ、ここに私の背中の写真があります。この背中についてきてください。というのは冗談です。いつでもEメールやInstagramで連絡してください。内閣府の皆様、本日はお招きくださりありがとうございました。私自身の経験と知識を、皆さんと共有できたことを願います。

ご静聴ありがとうございました。